

彩菜栽

2018年
6月

もぎたての味を楽しむ トウモロコシ



もぎたての新鮮な味は格別で、夏の家庭菜園の立役者、スタミナ源としても魅力です。糖分の多いスイートコーンの品種改良は急速に進み、平成の初め頃に比べるとビタミンB群やCが約15倍に増えている物もあり、栄養価の充実した健康食材になっています。

イネ科の作物なので、野菜畑の連

作障害を避けるための輪作に組み入れるにも好適です。

高温を好む（適温は22～30度）ので、十分暖かくなってから種まきします。図のように黒色ポリフィルムでマルチをし、株間30cmぐらいに1カ所3粒まき、育つにつれて間引きし、草丈17～20cmになった頃間引いて1本立ちにします。

粒がぎっしり付いた良品を得るには、雌穂に雄穂の花粉が十分に付くことが大切です。そのためには株数がある程度多く、1列ではなく複数植えましょう。少ない株数で花粉不足が懸念

される時には、開花した雄穂の下辺りを手のひらで軽くたたいて花粉を散らし、下方の雌穂に付きやすくしていきましょう。

葉の働き（光合成）を良くするため、下の方から出た脇芽は取り除かないで葉数を多くします。また雌穂は上の方の1番大きい1穂だけ残し、他の小さい雌穂は取り除きます。

追肥は草丈40～50cmの頃と、先端の雄穂が出始めた頃の2回、化成肥料を与えます。施肥量の目安は、1株当たり大きじ1杯としますが、前作の残渣が多く、葉の緑が濃く旺盛に育っていたら適宜量を減らして下さい。2回目の追肥の後、株元が小高くなるほど土寄せし、株元の不定根を

多く伸ばし風で倒れるのを防ぎます。収穫は絹糸の先が黒褐色に変色した（受粉後22～26日）頃です。先の方まで十分膨らんでいることを確かめてからもぎ取ります。

近くに異品種があると、その受粉によつて雌穂の粒に花粉親の形質が現れます。これをキセニアといいます。例えばあまり甘くないスイートコーンの近くで栽培すると、味や品質が著しく低下してしまいます。

交雑率は花粉親株と種子親株の距離が離れるほど低くなり、距離が0.3mの平均交雑率は23%、10～50mでは0.1～0.3%と極めて低くなるという調査データがあります。

トウモロコシが育つ姿

